

群 教 七	G10 - 01
	平28.261集
	道徳

互いのよさを認め合い、 仲間と助け合える児童を育てる 道徳の授業づくり

——多様な考えに触れ、自己の考えを深める活動を通して——

特別研修員 齋藤 晴紀

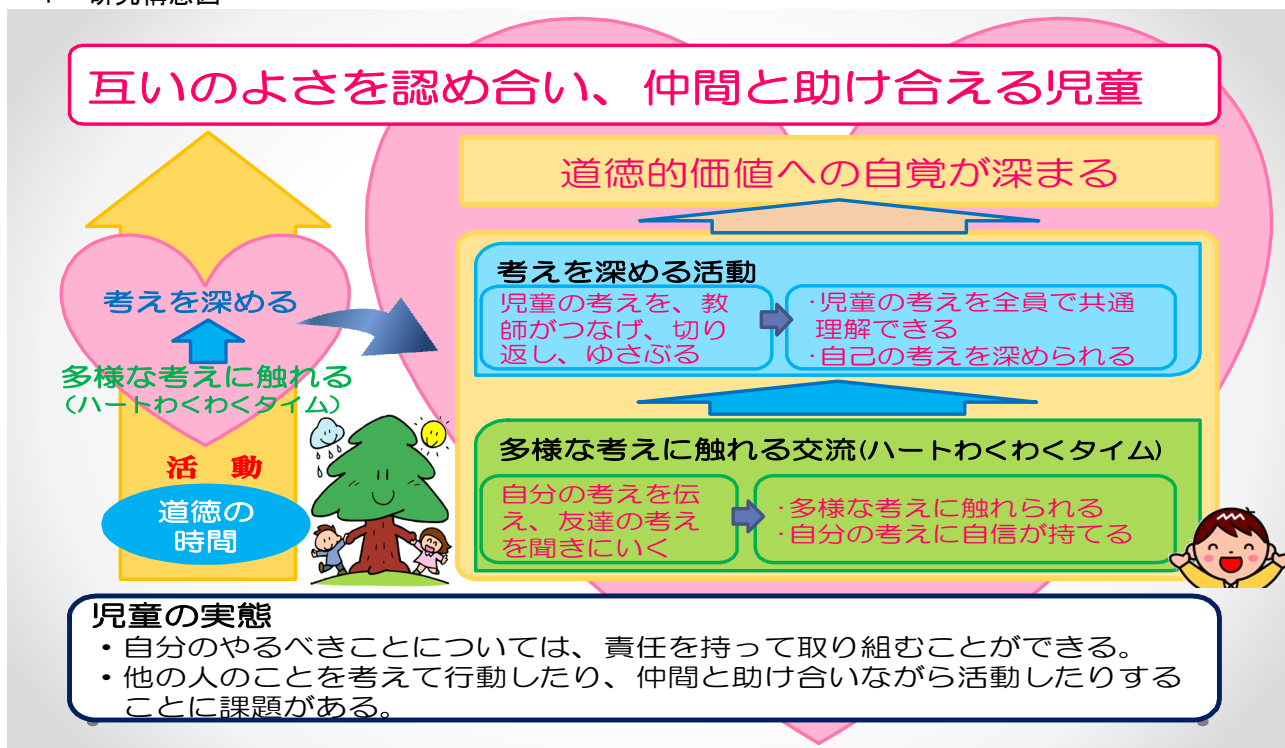
I 研究テーマ設定の理由

文部科学省「第2期教育振興基本計画」の中で、四つの基本的方向性の一つに、「社会を生き抜く力の養成」があり、その施策2に「豊かな心の育成」がある。本県では、はばたく群馬の指導プランにおいて、この施策2の「豊かな心」として「向上する心」「やりぬく心」「大切に作る心」の三つを重点的に育成したいとしている。また、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成27年7月）で改訂の経緯の中に示されているように、「発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合う」ことが求められている。

本学級の児童は、自分のやるべきことについて、責任を持って取り組むことができるが、他の人のことを考えて行動したり、仲間と助け合いながら活動したりすることに課題がある。そこで、道徳の時間において、本県の重点の一つである「大切に作る心」の「互いに信頼し、助け合う。2-(3)信頼・友情」について、深く考え、実践できる児童を育てたいと考えた。また、学習指導要領解説にも示してあるように、道徳的価値を押し付けるのではなく、道徳的価値の自覚が大切である。その道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合うことで価値を理解し、道徳的価値の自覚が深まると考える。そのためには、児童が主体的に考え、活動する必要がある。そこで、多様な考えに触れる交流や考えを深めるための活動を取り入れることで、互いのよさを認め合い、仲間と助け合うことができ、道徳的価値の自覚が深まると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

実践における授業改善に向けた手立てとして、以下の二つの活動を考えた。

(1) 多様な考えに触れる交流(ハートわくわくタイム)

(2) 考えを深める活動

手立て(1)の多様な考えに触れる交流とは、以下の①～⑤の順に行う交流である。

①自分の考えを書いたワークシートを持ち、教室内を自由に歩いて、他の児童と考えを伝え合う。

②交流した児童の考えで自分と違うものをワークシートに記述する。

③交流した児童に名前を書いてもらう。

④友達と交流した児童は、黒板に貼ってあるネームプレートを移動させることで、分かるようにする。

⑤ネームプレートの移動状況を見て、まだ交流できていない友達と交流する。

このような交流を通して、自分と同じ考えや違う考えなど、多様な考えに触れることができるとともに、自分の考えに自信を持つことができる。また、④のようにネームプレートで視覚的に訴えることで、交流できていない児童に目を向け、相手のことを考えながら主体的に行動することができたり、仲間と助け合いながら交流できたりすると考えた。

手立て(2)では、まず、多様な考えに触れる交流をした友達の意見を発表する。その後、教師が児童の考えをつなげたり、切り返したりしながら活動することで、児童の気持ちをゆさぶり(葛藤させ)ながら、児童の様々な考えを全員で共通理解する。このような活動を通して、考えが変容していき、道徳的価値への自覚が深まると考えた。

[道徳的価値の理解へ導く教師の切り返しのキーワード]

- ・でも最初は、～な気持ちだったんだよね? ・なるほど ・そういうことか
- ・その考えどういうことかな? ・今の〇〇さんの考え分かった?
- ・〇〇さんの考えはどういうことなのか説明できる人いますか?
- ・そう思うよね (道徳的価値の理解ができていない児童の考えに共感しゆさぶる)

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 多様な考えに触れる交流をしたことは、自主的にたくさんの友達の考えを聞くことができ、児童が多様な考えに触れられた。また、考えが同じ友達がいたり、考えが違っても自分の考えを知ってくれた友達がいたりしたことから、自分の考えに自信を持つことができた。
- 多様な考えに触れる交流をしたことで、児童同士で、「なぜそうなるの」「おしえて」などのやり取りが聞けるようになり、主体的に交流ができるようになった。
- 考えを深める活動の中で、児童の考えを教師がつなげたり切り返したりしたことは、児童の考えをゆさぶりながら、考えが変容し、道徳的価値を理解させるのに有効であった。
- 多様な考えに触れる交流や考えを深める活動をしたことは、自ら相手の考えを聞き、考えたことにより、相手の考えを認め、共に助け合って物事を解決しようとする意欲を高めるのに有効だった。

2 課題

- 多様な考えに触れる交流では、ワークシートに自分と違う考えを書いたり、交流した児童に名前を書いてもらったりと、書いている時間が多くなってしまった。また、サイン集めのようになってしまったことから、ワークシートを持たせないで交流し、席に戻ってから自分の考えとの相違点をじっくり考えて、考えの変容を記述することで、短時間でより充実した交流ができると考える。
- 多様な考えに触れる交流は、自分の考えと同じ考えに触れて自信を持たせるのに有効であったが、より多様な考えに触れさせるためには、自分の考えと違う意見の人のみと交流させるなどの工夫をすると良かった。
- 考えを深める活動では、道徳的価値について、児童自身が頭では理解していても、なぜその価値について考えることが大切なのかを理解できるような、切り返しの言葉を用意しておくことが必要だと感じた。

実践例

- 1 主題名 「友だちだから」 内容項目 2－(3) 信頼・友情 (第4学年・2学期)
資料名 「ケンくんのこと」 光文書院「ゆたかな心」

2 主題及び本時について

(1) 道徳的価値について(価値観)

本主題は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容2「主として他の人とのかかわりに関すること」(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」に位置付けられている。中学年の段階は、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつかって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがますます盛んになる。しかし、自分の利害を優先することで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。このようなことから、この発達段階においては、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのより良い関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。

(2) 児童の実態(児童観)

本学級の児童は、自分のことは責任を持って行うことができるが、その一方で、仲間と助け合いながら行動できる児童が少なかったり、集団の中になかなか入れない児童がいたりする。アンケート結果では、友達との関係で気になることや悩みがある児童は4名で、理由としては「けんかをして相手の気持ちが分からない」などであった。また、今までに相手のことを考えて行動したことがある児童は13名と半数以下であった。このことから、友達のことや悩みを抱えている児童は少ないが、友達に何かしてもらい、友情を感じるような経験も少ないことが分かった。そこで、児童にとって居心地の良い空間をつくるためにも人間関係を豊かで実りあるものにし、助け合いながら行動できる人間関係を構築する必要がある。そのためには、多様な考えに触れ、自己の考えを深める活動を通して、友達の気持ちや立場を理解し、互いに認め合える心情を育てたいと考えた。

(3) 資料について(資料観)

本資料は、主人公が、友達のケンくんと新聞づくりをする約束をしていたのに、ケンくんは来られなくなり、次の日も約束をしたのにケンくんは来られなくなったことで、信頼関係が薄れてしまう。しかし、ケンくんが来られなかった本当の理由を知り、ハッとすることの資料である。約束したのに2回も断られたばかりの気持ちを考えた後、断った理由を知ったばかりの気持ちを考え、比較させることで、道徳的価値の理解につなげることができる。また、相手の状況を考えず行動してしまったばかりの気持ちを考えることを通して、友達の気持ちや立場を理解しようとする心情が育てられると考える。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、主人公が友達のケンくんと約束したのに二回も断られたときの気持ちを考えた後、断った理由を知ったときの気持ちを考え、比較させる発問の構成にした。そこで、以下の手立てを行った。

手立て1 多様な考えに触れる交流(ハートわくわくタイム)

- ①友達と交流して考えに自信が持てるように、多様な考えに触れる交流を5分設定した。
- ②全員が交流する中で、多様な考えに触れられるように、最低三人と交流するようにして、交流した児童には、名前を書いてもらうようにした。
- ③自分と違う考えがあったら、大切なところをワークシートに記述するようにした。

手立て2 考えを深める活動

- ①葛藤しながら道徳的価値の理解ができるように、考えを深めるための活動をした。
- ②児童を指名し、交流した友達の考えを発表させ、切り返しの言葉をかけながら、一つの考えをより深めていった。
- ③葛藤場面が生まれるように、道徳的価値の理解が十分ではない児童を指名して、その考えについて、話し合えるようにした。

4 授業の実際

(1) 導入

- ・今まで友達とトラブルになり困ったことについて想起させた。
- ・**友達について考えよう**（道徳的価値への方向付け）
- ・意見を発表するときには、リレー指名（児童同士で指名していく）を行い、児童のつながりが深められるようにした。

(2) 多様な考えに触れる交流

主発問：断った理由を知ったぼくは、どんなことを考えただろうか。

主発問に対する自分の考えを基に、友達と交流して考えに自信が持てるように（他者理解）、多様な考えに触れる交流を5分設定した（図1）。

三人と交流できた児童が視覚的に分かるように、ネームプレートを左から右に移動させた（図2）。この工夫により、周りの児童が、交流のなかなかできない児童に目を向けられるようにした（仲間と助け合える児童の育成にもつながる）。

(3) 考えを深める活動

葛藤しながら道徳的価値の理解ができるように、考えを深める活動をした（次頁図3）。



図1 ハートわくわくタイムの活動



図2 ネームプレート

【考えを深める活動】（授業記録）

前半は、ケンくんのことを考えた意見が多かった。

S1：ぼくは理由も聞かないで、今日も来られないのと言ってしまったから、家の手伝いをしていることに気付かなかった。

S2：ケンくんの立場になって、考えてあげられれば良かった。

S3：家族を巻き込んでしまった。

S4：昨日は間違えて約束を破ったと思ってしまった。

S5：自分より大変そうだな。

T：こういうふうに気持ちが変わったということ？

道徳的価値の理解が十分ではない児童（S6、S7）を指名し、考えを深めていった。

S6（指名）：本当は遊んでいるんじゃないの。

T：前の発問の時、「遊んでるんじゃないの」って思ったんだから、そう思うよね？

S4：思いませんよ。理由を聞いたから（ぼそぼそとつぶやく）

S7（指名）：ぼくもサボってゲームしよう。

T：こうは思わない？思うよね。

S2：思わないよ。

T：断られたときは、（前の発問を指差しながら：次頁図4）こういう気持ちだったんだよね？

S1：お母さんがあやまってたよと言う理由を聞かなければ、遊んでいるかもって思うかもしれないけど、理由を聞いたからそうは思わない。気持ちが変わった。

T：なるほど、理由を聞いたことが大切だったということか。

S8：「遊んじゃおう、サボろう」という気持ちになっちゃうのは、友達をうたがっていることになる。本当はうたがっていないと思う。

S9：「遊んじゃおう、サボろう」と思わなかった理由は、ケンくんのことを信用してたから、約束してたけど、家の事情が



図3 考えを深める活動

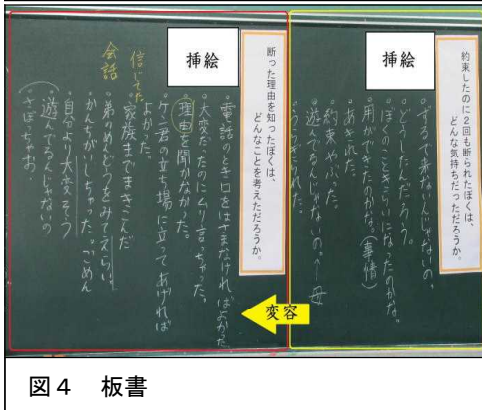


図4 板書

あったから、無理に誘うのは悪いからと言う気持ちに変わった。

S10：ちゃんと話をすれば良かった。

後半、S6「ケンくんの事情を理解してあげると良かった」「信じてあげると良かった」という意見が変わった。
(価値理解)

T：たくさんの人が「～すれば良かった」と言ってたけど、実際は、どうすれば良かったのかな？

S2：強く言わないで、なんで来られなくなったのかを聞けば良かった。

S11：勝手に遊んでいると思込まないで、理由を聞ければ、遊んでいるという気持ちにはならなかった。

S3：ちゃんと理由を聞いて、みんなでやろうと言えば良かった。

T：なるほど、ケンくんの状況を知っていれば良かったということだね。

S6：ケンくんを信じてあげれば良かった。

(4) 終末

深めた道徳的価値を実生活の中で実践しようとする意欲を高められるように、終末において、友達とより良い関係を築きあげていくためには、どのようなことを意識すれば良いかを考えさせた。

【ねらいを達成した児童の記述】(ねらい：友達の良い気持ちや立場を理解しようとする心情を育てる。)

- ・お互いが思いやる。その子を信じる。
- ・友達は何か事情があるんじゃないかと考える。
- ・相手の立場になって、相手の人のことも考える。
- ・信頼すること。
- ・友達の良い気持ちを聞くこと。
- ・助け合うこと。

【価値理解が不十分の児童の記述】(ねらいとする道徳的価値からずれてしまった)

- ・友達の話は最後まで聞く。
- ・約束は破らない。
- ・言葉遣いに気をつける。

5 考察

今回、多様な考えに触れる手立てとして、多様な考えに触れる交流(ハートわくわくタイム)を設定した。ただ考えを伝えるだけであれば、席の隣同士や班ごとに考えを交流すれば良かったが、自由に動き回って交流するよさとして、一人ぼっちになる児童がいなくなるように、周りの友達にも目を向けて交流することが挙げられる。研究主題にもあるように、互いのよさを認め合える児童を育成するためには、この手立てでは有効であった。しかし、交流の時間をさらに生み出し、充実させるためには、交流時にワークシートを持たせず、考えを交流することだけに集中させたり、自分と違う考えの人を探して交流させたりする工夫をするとより効果的だった。

また、考えを深めるために、教師が児童の考えに対して、ゆさぶりをかけるような言葉がけをして話し合いを進めたことは、道徳的価値を理解するのに有効であったと考える。その際、教師が児童の記述を把握し、言葉がけをしていかないと、道徳的価値の理解ができず、ねらいとする価値からずれていってしまうことが考えられる。

今回の実践では、多様な考えに触れ、自分の考えに自信を持ってから、考えを深める活動を行ったことで、交流が活発になり、道徳的価値の理解につながった。